

<編集後記>

昨日、2017年の12月に亡くなった渡辺公三先生の研究室をご遺族と一緒に整理したとき（2018/03/31）の写真ができました。写真を何気なく見ていたら、望月さんの『対人援助学の心理学』が棚にありましたよ。望月さんは渡辺公三先生が亡くなったことをご存じだったでしょうか。いずれにせよ、あの世というものがあるなら、立命館大学の衣笠総合研究機構で良いコンビを組み、私学としては比較的早く研究倫理システムを導入する立役者だったお二人は、おそらく顔を合わせて歓談していることだと思います。



望月さんと最初に会ったのはいつだか忘れてしまったけれど、おそらく行動分析学会の時だったことでしょう。そして、2001年立命館大学に着任してからは同僚として過ごすことができ、中村正さんと3人で人間科学研究所の活動をどのように活性化していくか、など充実した時を過ごすことができました。2004年に思いつきで始めたTEA（複線径路等至性アプローチ）も、今では広く世に受け入れTEAと質的探究学会という学会までできました。

立命館大学は望月さんが退職した翌月の2016年4月から総合心理学部が発足し、その2年後には人間科学研究科が発足しました。もし、望月さんが元気で、特任教授として5年間お残りいただいていたなら、どうなっていたでしょうか？と考えることが時々あります。言っても仕方ないことです。。。

望月さんが亡くなってから（対人援助学会の前編集委員長として）追悼特別号を企画して、こんなにも多くの方々にご寄稿いただくことができました。これも望月さんの人徳なのだと思います。思ったより刊行に時間がかかってしまったけれど、それは追悼しなければならぬ原事実を認めることへの抵抗だったのかもしれませんが。

ここに追悼号を贈ります！ 望月昭さん、ありがとう！

2023年3月31日 サトウタツヤ